

がんばろう 南三陸町 復興第 15 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援：
志津川広報センター



223名の新成人

「東日本大震災」後 2 回目となる南三陸町成人式が、1月13日(日)にベイサイドアリーナ交流ホールにおいて開催された。

新成人は男114名 女109名の223名で、地区別では志津川105名、戸倉30名、入谷12名、歌津76名となった。今年の式典も新成人が企画立案しておこなわれた。司会は赤白の羽織・袴の千葉さんと佐藤さんの二人の男性が受け持ち「今日と言う日を叶えられ大切にしたい」と手作りの式典がスタートした。



町長のあいさつでは「今回のような人と人の繋がりが大切と感じた事がない」と語り、「悔いがない人生を自らの力で切り開いていってもらいたい」と大人への一歩に対してエールを送った。後藤議長は「誇りと愛着を持ち、明るい南三陸町を作ってほしい」と新成人に未来の町づくりを託した。

新成人の「誓いの言葉」は志津川地区の高橋さんが「変わり果てた南三陸町を見て絶望した」、しかし、「前に進むしかない」と語り、「新たな南三陸町を作っていかなければならない。日々の精進で自分を試していく」「感謝の気持ちを活力に頑張りたい」と復興に取り組む事を誓った。

又、戸倉地区の佐々木さんと入谷地区の菅原さんの2人が、成人を迎えこれからの抱負を、新成人と来賓者の前で述べた。引き続きビデオ映像で自分たちの歩みを、当時を思い出しながら笑顔と共に見つめていた。

記念講演はアグネス・チャン氏が「みんな地球に生きるひと〜日本の国際化と子供の未来へ」と題し、成人者へのはなむけの講話をした。



本吉郡剣道道連盟新春初稽古会

新春1月13日(日)歌津中学校体育館で、本吉郡剣道連盟主催の「初稽古会」が、小学生低学年から高校一般参加者まで総勢80名で、本吉郡の少年剣士・愛好家が一同に会した。その内指導者が17名を教え、小中高の剣道人口の減少が見られる。

午前9時からの開会式では、小野寺寛郡連会長が挨拶で「支援してくれた多くの方々の恩返しとして頑張りたい」、25年の初稽古会、「丈夫な体と心を作ってほしい」と話した。恒例の「新春稽古会」は、地域の剣道の振興と地域における青少年の健全な育成を目指し、郡剣道連盟が本吉郡内のスポーツ少年団、中高の剣道部の礼儀を始めとする剣道技量の向上を図っている。



戸倉剣道からは一人の参加

高校生から小学生低学年まで、力量に合せ有段の指導の元で、2時間の基本から、かかり稽古まで汗を流した。

低学年指導には三浦光治先生が付き、足の運び、打突の間合い、気合など、元気いっぱい声が響いていた。子供たちも問い掛けに「楽しい」と笑顔で答えてくれた。



最知七段教士の厳しい眼差しが光る



復興てらこ屋 歌津総合支所

昨年11月に「復興てらこ屋」に参加した。今回のテーマは「河川堤防と防潮堤について考えよう」で、気仙沼土木事務所の技術次長を招き「伊里前川の堤防整備計画について」、より良い復興ができるよう学び、考え、語り合った。

第2回として歌津総合支所で午後7時から開催され、会場には参加者・事務局、気仙沼土木事務所の総勢40名余りが出席し、伊里前川の「河川堤防」の今後の建設の進め方を説明いただいた。志津川地区を中心とする再建の方向性は把握するが、歌津地区で展開されている、河川・国道の今後の復旧の進め方について、初めて聞く事となった。

歌津の町向から弘川の道路は、河川堤防700m余りの建設で、以前あった歌津消防署前で道路が寸断され、川上の場所から、皿貝の歌津よりへ迂回路となるという。河川堤防の一番高い所には4mの道路ができるが、一般的には歩道的な役割となる。しかし、県の管理下にあり「管理道路」として、県事務所の車は堤防管理の観点から走行ができる。

参加された歌津住民からは、「8.7mは決定なのか」「堤防の形状は」「自然環境の維持は」「コンクリートではなく緑や土を」「川と町が分断されるのでは」「現在の橋はどうなるの」「堤防の背後地は」「今後のスケジュールは」など、多くの疑問が出され、この部分を親切に土木の総括担当が、全ての質問に答えてくれた。他にも「しろうおはどうなるの」「建設模型を作って」などがあり、自然形態の維持や、より具体的な構図が見たいからに外ならない。この場所にあるお寺の孤立や市街地住民との分断など、住民にとっては心配な事ばかりが山積する。

今後も回を重ね「復興てらこ屋」の学習会を開催する。主催は復興みなさん会と宮城大学地域連携センターで、後援は「すばらしい歌津をつくる協議会」が担っている。

第2回目の「復興てらこ屋」は、まとめも見やすいように編集し、参加した方や地域に配布をしている。

曹洞宗尼僧団が三回忌法要 3月7日(木)午前10時 徳性寺本堂

住宅ローン問題「どうしたら？」

町民の方々には住宅ローンなどの、借入れ返済に困っている被災者が多くいる。

金融庁と財務局では「債務整理のガイドライン」を利用することにより、一定の要件の下、債務の免除が受けられることを「ご存知ですか?」「相談下さい!」と周知をしている。

ガイドラインを利用するメリットとして①破産手続き(法的整理)②国の補助により弁護士費用はかからない③手元に残せる現預金の上限が500万円を目安に拡張される、などのガイドライン利用のメリットはある。個々の状況もあり活用するには、現在と今後の家族生活の設計により、多様な「個人版私的整理ガイドライン」の選択方法がある。

事例1)借入残高が800万円あり、自宅跡地の「公正な価格」に相当する約200万円を分割返済し、自宅跡地を手元に残して約600万円の借入の免除を受けた。

事例2)借入残高が2社から2000万円あり、支援金300万円、地震保険約600万円



入谷「風庵」にジャズのスイングが!

「JAZZ FOR TOHOKU」のコンサート、岡淳さんのサクソとドラム・ピアノ・ベース4人の、ジャズのセッションが入谷地区で昨年11月開催された。ツアーは今年で「風庵」さんでは2回目、メンバーが変わりながら東北の被災地を巡っている。「行くだけでも意味がある」と言う岡さん、多くのコンサート会場での、被災地からのメッセンジャー的役割があると語る。

被災地の会場に来てくれた皆さんとふれあい、語り合う事を、多くのコンサート会場で話す事で、被災地の現状を伝えるのだと言う。復旧から復興に向かう被災地の人たちの、日々変わる環境・心情を全国の人に知ってもらい、被災地への支援の継続を「ジャズ」を通し世界へも訴えている。

毎日の復旧復興で多忙な方や、仕事の先が見えない人、被災地の皆さんを元気にしたいと思う人など、今を生きている多様な皆さんが集まった会場となった。歌をまだ歌う気にならない、人のいる場所はまだまだ…、夜道はまだ怖いなど津波による色々な心情の中で、手拍子やセッション、しばらくぶりの再会に笑顔も生まれ、少しは心とむ事ができた集まり参加した方は話す。

「パンチパーマCG?」はJAZZ FOUと観客が一体となった瞬間だった。「チリチリチリ」である。「楽しかった」、恥ずかしさなんか、そこには無く、苦手な「ジャズ」を大いに楽しんだ。アンナ朱美さんが「虹のプラネタリアーム」のバラードを飛び入りで披露した。昼間は「のぞみ作業所」を訪れた。通所生も「チリチリチリ」には、きっと楽しんだろうし、盛り上がった様子が頭に浮かぶ。音楽は人を癒し元気にしてくれる。

多くの皆さんとジャズでスイングした一夜だった。主催は多くの皆さんにジャズを通し、元気になるってほしいと話す。今後も『ジャズ4』のメンバーは「南三陸町にまた来ます」とコンサートの終わりに会場の皆さんと約束をした。



風庵の看板



旭ヶ丘団地と被災した土地。今後この場所に大型店舗の建設予定も浮上している。

を受領したが、支援金300万円のほか地震保険を含む現預金のうち500万円について自由財産の拡張が認められ、1500万円の免除を受けた。

二つの例があるが、一概に「ローン問題」をかかえる方々にあてはまる訳でもない。国の担当者は「被災者が一度リセット」する事で次に進め、「債務整理のガイドライン」の利用で、これからの所得が今後の生活の資金として、預金もできると話していた。

「コールセンター」「法テラス」に相談し最善の方法を考えてもらう行動力も必要です。

第一回福祉まつり



ベイサイドアリーナにて輪来(わらい)祭開催

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成24年(2012年) 10月の出来事
～地元報道より～

◆にぎやかに福幸秋祭り

南三陸町歌津の福幸秋祭りが10月20日、歌津伊里前福幸商店街で開かれた。多くの家族連れなどが訪れ、買い物や抽選会、バンド演奏などを楽しんだ。

◆迫力ある演奏披露

県警音楽隊と南三陸署による「南三(みなさん)ふれあいコンサート」が10月20日、平成の森アリーナで開かれた。

県警音楽隊25人が来場者約120人を前にクラシックやポップス、演歌などを次々に演奏した。女性5人で組織するカラーガード隊も登場し、曲に合わせて踊りを披露。来場した住民を迫力ある演奏や演技で楽しませた。

市街地道路の嵩上げ工事



50センチほど嵩上げされた道路

12月定例議会 6議員が質問

◆山内孝樹氏

①地域資源、文化を生かした観光開発の考えは。交流人口の拡大策は ②防災対策庁舎を、なぜ解体しないのか。解体はいつか。

町長 ①農林水産業、商工業の復興とともに密接に連携していかなければならず、もう少し時間がかかる。震災の状況や防災の情報を伝えるだけでなく、人々の生活、文化を伝える活動に支援していく。現在、観光客誘致再構築の具体策の一つとして研修生や修学旅行生を受け入れる簡易施設の建設を検討している。②昨年9月から解体の方向で変わっていない。解体、保存など遺族の話を公平に聞いて判断したい。解体は県のがれき2次処理のスケジュールにのって行く。告訴の問題もあり、中断している。

◆千葉伸孝氏

①志津川市街地の防災集団移転で、住民要望と町の区画数の差をどうする ②第2工業団地の計画を ③人口流出が懸念される。町外へ住宅再建した軒数はどのくらいか。

町長 ①志津川市街地は計画の範囲内で、中央地区もおおむね範囲内だ、東地区は130戸の計画だが、190戸ほどになる可能性があり、北側になると思うが拡大したい。②事業所のリスク分散の意向による高台への産業集積は、産業再生の一環として十分理解している。今後、事業者と協議したい。

保健福祉課長 ③全壊、大規模半壊世帯の再建は、把握している分だけだが、町内81軒、県内162軒、県外8軒。登米市が最も多い。

◆防災力向上を「リーダー研修」

防災リーダーを養成する南三陸町防災語リーダー研修会が10月21日、町役場などで開かれ、町民が応急手当や心肺蘇生法などを学んだ。

◆佐藤教育長が再任

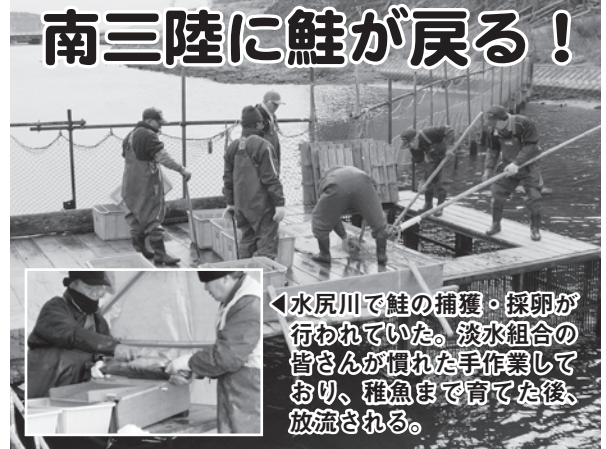
南三陸町の定例教育委員会が10月24日、町役場で開かれ、教育長の佐藤達朗氏の再任を決めた。

◆和泉市と交流会

大阪府の和泉市社会福祉協議会による「南三陸&和泉交流会」が10月26日、南三陸ボランティアセンター前で開かれた。当日は市民ボランティアと共に来町し、信太うどん、明石焼き、寒天などが振る舞われた。

◆お花いっぱいを見て

南三陸町を花いっぱいにとしようと、町内の女性らが10月27日、花の植栽作業を行った。役場や仮設住宅ではプランターにパンジーやビオラなどを、私有地ではヤエザクラの苗木を植栽した。



南三陸に鮭が戻る！

水尻川で鮭の捕獲・採卵が行われていた。淡水組合の皆さんが慣れた手作業しており、稚魚まで育てた後、放流される。

◆復活の水戸辺鹿子躍

地域伝統芸能全国大会福島大会「ふるさと祭り2012」で、南三陸町戸倉の行山流水戸辺鹿子躍保存会が特別賞を受賞し、高円宮妃久子さまからメダルを授与された。

◆戸倉小中 住民懇談会開かれる

南三陸町教育委員会は10月30日、「戸倉小・中学校の今後の学校運営に関する地域懇談会」を開いた。被災して他校に併設されている戸倉小・中の今後の在り方について、町教委が地域住民に説明した。

◆大瀧りう子氏

①バスなど町民の足はデマンド方式で行えないか ②登米市内と町内を結ぶ連絡バス「日赤バス」は来年3月までか ③戸倉駅までの鉄路復旧の見通しは。

町長 ①本年度内に地域生活交通計画を策定する。当面はBRT本格導入後の町民バス路線の見直しと安心安全運行確保を前提に改善を図る。デマンド方式は今後の集落形成を見据え、事業の採算性などを総合的に検討する。③今定例会に戸倉駅前広場の調査費を計上している。確約とまでは言えないが、前向きな方向でJRと話し合いをしている。

復興企画課長 ②今年5月末までだったが、本年度いっぱいまで延長していただいた。それ以降は町の責任で継続を検討している。

◆菅原辰雄氏

①震災の避難、救援、支援に活用された町道、農林道の整備計画は。②25年度のデスティネーションキャンペーン(DC)への取り組みと観光振興策を示せ。

町長 ①町道、農林道495路線、377.6キロのうち、震災で226路線、32キロが被災した。現在は災害復旧事業に全力を尽くしている。今後は高台移転などで車、人の導線が変わる。既存地域と高台とを結ぶ道路も必要になってくるので、道路網の再構築を検討する。②観光施設などの被害の実情を踏まえ、交流人口を生み出すイベント、防災学習、学びのプログラムを行い、観光客や受講生を受け入れたい。サービス提供する簡易施設を今後建設する予定で、機能充実を図る。

◆待望の体験施設完成

南三陸町戸倉津の宮に、体験学習室「タブの木」が建設された。南三陸の自然をテーマにした座学のほか、海藻押し葉作り体験などが行なえる施設で、雨天でも対応可能になった。

11月には同じ敷地内に産直施設もオープンする予定で、地域活性化につながることを期待されている。

◆まちづくりに意見交換

南三陸町の志津川地区町づくり協議会の専門部会が立ち上げられ、10月31日夜に第1回会議が開かれた。

この日は高台移転、産業再生、公園の3部会合同の会議で、部会規定が決められた。第2回会議から本格議論をスタートさせる。

◆化石の宝庫で新発見

南三陸町歌津葦の浜の約2億年前の地層から、イカに似た古代生物「ベレムナイト」の国内最古の化石が発見された。新種も含まれており、歌津地区にちなんでシチュアノベルス・ウタツエンスと名付けられた。地元での標本展示や子供たちの学習などに活用することが検討されている。

◆密漁 許さない 志津川湾で合同訓練

アワビ漁解禁を前に、南三陸町志津川で10月31日、密漁対策訓練が行われた。気仙沼海上保安署、密漁対策協議会、南三陸署から約40人が参加し、密漁者を発見した場合の対応を確認した。

◆防災庁舎 県警などが現場検証

南三陸町の防災対策庁舎で死亡・行方不明となった町職員の遺族が佐藤仁町長を告訴している件で、11月26日から南三陸署、県警本部捜査1課の捜査員が現場検証を行った。庁舎をブルーシートで囲い、1階から屋上まで検証する。関係者への事情聴取は順次行っていくという。



◆鈴木春光氏

①高台移転の課題と進捗よく状況を示せ ②入谷小学校通学路の拡幅整備を。

町長 ①防災集団移転促進事業は、11月末までに20地区28団地が予定しており、このうち17地区24団地で大臣同意を得た。残りも25年1月の大臣同意に向けて作業を進めている。3月には藤浜地区の造成に着手する予定で、今定例会に補正予算を計上した。25年度中の全地区発注、造成着手に向けて進めている。②すべての通学路の歩道が未整備で、入谷小学校線は22年度に一部拡幅したが、現在は災害復旧を優先させており、一時休止している。災害復旧に一定程度のめどがみついたら再開する。中学校線のふた板の整備は既存予算で対応したい。

◆山内昇一氏

①若者農業企業家を育成する考えは ②TPPを見据えた「人・農地プラン」の町の考えを。

町長 ①震災後は意欲ある若手農家を中心に生産対策交付金を活用し、キク生産施設と薬物野菜のハウスを整備した。キクの若手農家は農林水産大臣賞を受賞するなど成果を上げている。経営の拡大と安定化を支援しながら、法人化を進める中で育成を図って行く。②TPPは、原則すべての関税撤廃を目指している。より競争力のある農業体の育成が必要であり、積極的に支援していく。プランは地域農業の設計図となるもので、青年就農給付金制度などのメリットがある。町はプラン作成を推進しており、本年度中に数カ所の地域で作成される。